

College for International Co-operation and Development



Welcome to CICD!!

この度は、College for International Co-operation and Development (CICD) の「国際ボランティアプログラム」にご興味・ご関心を頂きまして、誠に有難うございます。

CICDの国際ボランティアプログラムは、私たちの誰もがDevelopment Instructor（開発インストラクター。ボランティア）として、世界のいわゆる「開発途上国」と呼ばれる国へ赴き、実際に現地で教育水準の向上や、貧困と疾病の予防と撲滅に貢献できるプログラムです。

本プログラムでは、提携の非営利団体 Humana People to People との協働のもと、南部アフリカとインドでの開発プロジェクトでボランティアとして活動する、未来の Development Instructor を育てることを目的としています。

Humana People to People は、南部アフリカとインド、その他の世界各地において、現地でストリートチルドレン・孤児への支援活動、小学校教員の育成や HIV/AIDS の予防と撲滅活動など、様々な開発支援プロジェクトを実施しています。

Development Instructor は、これらの開発支援プロジェクトで活動するにあたり、自らが持つそのアイデアを現地へもちい、現地の人々と一緒になって、教育水準の向上や貧困の撲滅など、数多くの問題解決に向けて挑戦することができます。

ここでいう「アイデア」とは、Development Instructor となるあなた自身が培ってきた知識や経験、CICD の事前研修期間で培われる新しい経験のことです。そして、何よりも、あなた自身がアフリカとインドで何かを成し遂げたいとする試みが、現地の人々やあなた自身の大きな「力」となります。

私たち CICD は、南部アフリカとインドでの国際協力・ボランティア活動を志すあなたが、本プログラムを通して、実際にその挑戦を試みる機会に出会うことを楽しみにしています。

2008年9月

College for International Co-operation and Development

Index

団体概説	
CICDとDRHスクールについて	4
Humana People to Peopleについて	5
国際ボランティアプログラム	6
CICDでの事前研修	7
CICDの教育システム－DMM学習－	8
－Studies	
－Courses	
－Experiences	
Partnership活動／デンマークでの特別活動	11
アフリカ／インドでのボランティア活動	12
アフリカで活動可能なボランティア	13
－Child Aid（子ども支援活動）	
－School for Street children（ストリートチルドレンのための学校）	
－Teacher Training College（TTC。現地小学校教員養成学校）	
－Vocational school（職業訓練学校）	
－Second hand clothes and shoes sale（中古衣類販売）	
－Farmers Clubs（農民／農業活動）	
－Hope（HIV/AIDS予防・撲滅運動）	
－TCE（Total Control of the Epidemic。HIV/AIDS予防・撲滅運動）	
インドで活動可能なボランティア	15
－Green Post（Tsunami Action in Tamil Nadu）	
－TCGD（Training Center For Global Development）	
－TCE（Total Control of the Epidemic。HIV/AIDS予防・撲滅運動）	
事後研修	16
ガイアプログラム	17
CICDでの日常生活	19
CICDの魅力と特徴	20
学習評価と規則	21
プログラムへの参加方法	22
プログラムのお申込みと参加までの流れ	23
よくあるご質問	24

Organization

College for International Co-operation and Development (以下 CICD) は、DRH スクールの提携校の一環として、1998年にイギリス北部、東ヨークシャー・ハルに開校しました。

CICDは、イギリス Not for Profit Company Reg. No. 3390280 に登録された、非営利団体のボランティア養成学校です。

CICD の名前の由来

College 「大学」は、CICDがイギリス政府より認可された教育機関であることを証明しています。

International 「国際的な」は、CICDが世界的に重要な問題に関心をもって取り組み、学校が世界中の人々に対して開放的な学校であることをあらわしています。

Co-operation 「協力」は、私たちが「一緒である」ことを意味しています。私たちは広い視野をもって、全ての世界の人々と肩を並べて手を結びます。そのため、CICDの日常生活の中では、チームワークとお互いを尊重し合うことが求められます。

Development 「発展」は、私たちCICDが物事の向上と改善に関心があることを物語っています。私たちが広く視野をもつことで、今日の世界の問題に積極的に関わり、問題の改善と向上に取り組むたいことをあらわしています。CICDの学校の日常生活では、私たちは教育とこのような「発展」を同時に行いたいのです。なぜならば、教育とはあなたと私たちを変えるような、重要なものでなければならぬからです。

CICDでは設立の1998年以来、Humana People to peopleの南部アフリカ／インドの開発プロジェクトに、これまで約500人のボランティアを派遣してきました。

CICDは、今日の世界における国際問題に対して、何らかの「行動」をとりたい人々のための学校です。CICDの目標は、あなたのもつ可能性がそのまま世界で実現することができるように、あなたが知識と技術を習得することの手助けを行うことです。

DRH スクール

DRH スクールとは、提携の非営利団体 Humana People to People と共に、アフリカ・アジア・南米などの開発途上国において、貧困や教育の問題に直面している人々の生活を向上・改善することを目的とする、非営利団体のボランティア養成学校です。

DRH [Den Rejsende Hojskole (デンマーク語)] とは、「旅する学校」を意味し、1970年にデンマークで設立されました。当時、アフリカ・アジア・南米へと旅をした何千人ものデンマークの若者たちが、世界中で貧困をはじめ政治、経済、人権など、様々な問題に直面している人々の生活の向上・改善を試みたいと思い、DRH スクールを立ち上げたのが始まりです。

1977年には Humana People to People を設立し、1980年以降には DRH スクールは、「国際ボランティアプログラム」を開始しました。プログラム設立後、DRH スクールは Humana People to People がアフリカ・アジア・南米などで実施する開発支援プロジェクトに Development Instructor を派遣し、貧困と教育の問題に直面している人々の生活を向上・改善する活動を彼らと協働して行っています。

現在、DRH スクールは、ヨーロッパ、アフリカ、アジアとアメリカ合衆国の各国に合計13校が在籍し、活動範囲を広げています。

Humana People to People とは

Humana People to People は、世界 5 大陸にわたる 40 カ国で活動する国際的団体です。

アフリカ、アジアと中南米などの開発途上国において、Humana People to People は貧困、教育の不足と感染症などの脅威にさらされている人々に対して支援活動を行っています。

Humana People to People の活動概念は、スタッフや Development Instructor がもつ新しいアイデアを現地の人々に伝え、プロジェクトが終わった後も、彼らが自立して自身で引継いでいける支援活動を行うことです。

当団体は、DRH スクールの教師・学生たちによって 1977 年、デンマークで設立されました。DRH スクールの教師・学生たちが世界中を旅するなか、アフガニスタンにて学校建設や、現地の人々への衣類寄付を主とする支援活動を始めたのが設立のきっかけです。「世界で貧困の脅威にさらされている人々に支援活動をするには、それを実行できる組織が必要である。」このような思いから、1977 年にデンマークにて Humana People to People が設立されました。

1980 年には、ジンバブエ、モザンビークにて難民支援活動を開始。その後、ザンビア、アンゴラ、ギニア・ビザウなど他のアフリカ諸国でも活動を広げ、現在はアフリカだけではなく、アジアと中南米にまで活動範囲を広げて 260 以上の開発プロジェクトを実施し、貧困問題を筆頭に、HIV/AIDS 予防・撲滅、教育の普及・向上に特に力を入れて取り組んでいます。

また、Humana People to People はアフリカ、アジアと中南米以外にも、ヨーロッパやアメリカ合衆国とカナダでも活動を行っています。

ヨーロッパ、アメリカ合衆国とカナダでは、主に中古衣類回収とその販売を行い、それで得た収益をアフリカ、アジアと中南米の Humana People to People が実施する開発プロジェクトに支援する Partnership 活動（資金援助）を行っております。また、回収した衣類は販売されるだけではなく、アフリカを中心に活動している Humana People to People に送られています。送られた衣類と靴などは、現地の Humana People to People が Partnership 活動として安価な値段で販売し、現地の人々に衣類を安価な値段で提供し、同時に雇用に就く機会を与えています。

このように、Humana People to People は過去 31 年に渡って活動範囲を広げ、現在では世界 40 カ国で 7,000 人以上と共に活動する国際的団体です。

Humana People to People は、CICD やその他の DRH スクールはもちろんのこと、国際的財団、政府機関と国連の子会社やその他の多くの支援者と共に活動を続けています。



国際ボランティアプログラム

南アフリカでアパルトヘイト廃止活動に大きく貢献し、その後は大統領としても活躍したネルソン・マンデラは、2005年にトラファルガー広場でこう宣言しました。

『貧困を克服することは、慈善事業の行為ではありません。それは、正義の行為です。それは、基本的な人間の権利（尊厳と適切な生命に対する権利）の保護です。私は、世界の全ての指導者に言います。「顔をそむけないで下さい、躊躇しないで下さい。」と。世界が言葉ではなく、行動に飢えているということを認めて下さい。勇気と視力をもって、行動して下さい。それは時々、大きな成果をもたらします。あなたは、その偉大な世代にありえます。あなたの偉大なものを開花させて下さい。

もちろん、これらのことは簡単ではありません。しかし、これをしないことは人道に反する罪です。そして、私は今、これらのことに対し、全人類に立ち上がるようにと尋ねます。』

現代における最も明らかな矛盾は、富める者と貧しい者の差です。私たちは、極度の貧困がまだ今日の世界における重要な問題であることについて、不名誉なことであると言わざるを得ません。

近年の世界は、国際的なテロリズムと武装対立の恐れによって特徴づけられました。このため、世界が平和になるまでは、貧困問題は最優先されるべき解決問題ではないと主張する人々もいるでしょう。しかし、貧困問題が本当に解決されれば、世界はより平和になるのではないのでしょうか。

CICDの国際ボランティアプログラムは、「世界の貧困問題を解決するために何かをしたい」という人々のためのものです。私たちCICDでは、貧困問題をはじめとする、世界の様々な問題が解決されるべきものだと考えています。

私たちCICDでは、あなたがCICDと何千もの人々と一緒にこの活動に加わることを歓迎いたします。

国際ボランティアプログラムの概要

セッション1: CICDでの事前研修-6ヶ月間。

セッション2: Humana People to Peopleと一緒にボランティア活動-6ヶ月間。

セッション3: 南アフリカ/ヨーロッパ/アジア/中南米での事後研修-2ヶ月間。



Training

CICDでの事前研修 (6ヶ月間)

アフリカ/インドでボランティア活動に参加する前に、イギリスのCICDにて6ヶ月間の事前研修プログラムに参加することになります。このプログラム期間は、主に学習活動週間と雑誌販売活動週間の2つによって構成されています。基本的には、月の前半が学習活動週間、後半が雑誌販売活動週間となります。

●学習活動週間

以下の2つのWeekで構成されています：

- －Study Week : DMM, プレゼンテーション, 議論などの学習を中心に行います。
- －Action Week : 学校内外のイベントの企画・運営を中心に行います。

●雑誌販売活動週間

イギリスの街頭・大学で、CICD発行の雑誌を販売する活動を行います。

●特別活動週間

6ヶ月の期間中に1週間～2週間ほどのデンマークのDHRスクールで特別活動があります。

●週末の特別活動 (月に1度のみ)

- －Building Weekend : 建物のペンキ塗りと修理作業。
- －Agitation Weekend : CICDについての広報活動。

●長期休暇 (1週間～2週間)

期間中に夏期休暇と冬期休暇が1週間～2週間ほどあります。

- －夏期休暇 : 7月上旬から1週間程度。
- －冬期休暇 : クリスマス前から年始後の約2週間。

学習システムについて

CICDの学習形態は、「Study point(スタディ・ポイント)」と呼ばれるポイント制になっています。事前研修の6ヶ月間で合計850ポイントを取得しなければなりません。その主な学習は、パソコンのネットワークを利用したDMMと呼ばれるデータベースを使用した個人学習が主体となります。

DMMはStudy, Course, Experiencesの3つの項目から構成されています。Study Weekで行ったプレゼンテーションや議論, Action Weekで行った活動も全て、レポート形式にまとめて、DMMを通して提出する必要があります。

CICDでは、このDMM学習を通して、6ヶ月間の事前研修期間に合計800ポイント(Study 500, Course 150, Experiences 200)を取得する必要があります。期間中に取得できなかった場合、ボランティア活動への派遣は延期となります。

CICDの教育システム—DMM学習—

DMM (The Modern Methods of Determination) は、CICDをはじめ、他のDRHスクールやアフリカとインドの教育関係プロジェクトで使用されている独自の教育のシステムです。

DMMとは、各個人それぞれの学習レベル・生活環境に応じて、学習することが可能な学習方法です。CICDには、様々なバックグラウンドをもつ学生が集まるため、各個人の得意とする科目、知識・学習レベルが異なります。例えば、国際政治・経済、貧困問題、HIV/AIDSなどの国際開発について専門的知識をすでに備えている方と、そうでない方がいます。また、ボランティア活動を行う派遣国やプロジェクトが異なるため、各個人の必須学習科目が異なります。そのため、CICDでは、各個人が自分の学習レベルにそった学習をすることが可能なように、このDMM学習を取り入れています。

DMMとは、各個人のコンピュータ上にあるデータベース（ファイル）です。DMMファイルには、約15,000の学習科目が用意されています。各科目は、レベル1-12にわかれ、基礎知識から応用知識を取得することが可能です。また、各科目によって獲得できるポイントが異なります。

学生は各個人、DMMファイルの中から、自分が必要だと考える科目を選択します。各科目の全てに、科目に関する説明と問題が用意され、問題に関する学習方法が説明されています。学生は用意された問題を簡潔に論述し、それを先生に提出して合否をもらいます。先生の合格をもらえた時点で、ポイントがもらえます。

DMMは以下のような3つの項目で構成され、学生はそれぞれ規定されたポイントを獲得する必要があります。

- Studies (500)
- Courses (150)
- Experiences (200)



Studies (500)

国際政治と経済，貧困問題，派遣国の地理，歴史，政治やプロジェクト，熱帯病，感染症，語学レッスン（ポルトガル語と英語）についてなど，国際開発について幅広く学習します。また，Study Weekで行ったプレゼンテーションや議論の意見・感想をレポート形式で論述し，提出する必要があります。

学生は派遣国や派遣されるプロジェクトにより，必要となる学習科目が異なります。そのため，どの学習科目に焦点を当てて学習を行うかは，全て学生個人の選択次第となります。各科目は基礎から応用まで学習することが可能で，選択した科目のポイントは1~40と様々です。

また，この「Studies」で450ポイント達成するためには，数百時間の学習時間が必要となります。

Courses (150)

毎朝の朝会で取りあげる議題・プレゼンテーションについての，小レポート作成・提出です。朝会は毎朝1時間あり，アフリカ/インドのBBCニュースの議題，環境問題やプロジェクトについてなど様々な議題が先生とスタッフ，時には学生自身によって取りあげられます。

Courses の例：

- ーガイアの仮説
- ー地球温暖化問題
- ー地球温暖化現象で引き起こされる地球問題
- ーグラミン銀行（バングラデッシュで，貧困層向けに事業資金を融資し，彼らの生活の向上を促す活動を行っている銀行。）に見る小規模金融システム
- ーTCE (Total Control of the Epidemic. エイズ予防・撲滅活動プロジェクト)
- ー極端な貧困問題による影響
- ー歴史に見る活動家
- ーメディアの役割
- ーコンポスト（堆肥）



Experiences (200)

実践的なスキルを養う学習は、その重要性が認められながらもしばしば怠られることがあります。

CICDの学習では、学習システムの一環としてこの実践的スキルを養う項目が「Experiences」として用意されています。

この項目では、主に Action Week で行った学校内外で行われるイベントの立案、実行の意見・感想をレポート形式で論述し、提出します。

Action Week で行う活動例：

- 大勢の前でプレゼンテーションを行う
- ビルディング・ウィークエンドに参加する
- オープン・サンデーを企画・運営して、地域と外部との積極的なコミュニケーションをとる
- 近隣のNGOと連絡を取り合い、自分の活動するプロジェクトについてプレゼンテーションを行う
- HIVセンターに訪問して、感染症の学習を深める
- ポルトガルのHumana People to Peopleを訪問し、語学の学習を深める
- デンマークから訪問に来る、両親に問題がある子どもたちの世話をする



この項目では、学生の自発性と行動力、特にコミュニケーション能力を育成することを目的としています。国籍・文化・価値観や年齢層が異なる人々と協力し、計画を立て、活動を実行に移すことは、容易ではありません。しかし、学生がボランティア活動でアフリカ又はインドに派遣されて活動するときには、コミュニケーション能力が問われます。自分と国籍・文化・価値観や年齢層が全く異なる現地の人々と、上手にコミュニケーションをとって活動していく必要があります。

この項目を通し、どのように自分とは異なる国籍や年齢層の人々と一緒になって生活・活動を築いていくかを、実践によって学んでいただきます。

Partnership (街頭での雑誌販売)

Partnership活動は、学校の運営費用とCICDでの滞在費をまかなうものです。本プログラムでは、参加費用(合計£6,100)の半分(£2,900)をCICDの事前研修開始前にご本人負担、残りの半分(£3,200)を事前研修期間中のPartnership活動によって賄うシステムとなっています。

CICDのプログラムには、様々な国々の人々が参加されます。日本と比較した場合、低所得国である東欧、ラテンアメリカやアフリカ出身の参加希望者の中には、経済的な理由からプログラム費用合計(£6,100)を支払うのが困難な方が多くいらっしゃいます。CICDでは、そのような様々なバックグラウンドをもつ方々が参加しやすいように、プログラム費用合計の半分近くを事前研修期間中のPartnership活動によって補うカリキュラムが組まれています。

なお、Partnership活動により集められた資金は、アフリカ又はインドでのプロジェクトには支給されませんので、ご注意ください。(※詳細はプログラム参加費用の欄をご覧ください。)



Partnership 活動の方法

Partnership 活動の基本的な方法は、CICDが発行している広報雑誌(1雑誌=£2)を販売することです。多くの学生が、周辺都市や大学などにおいて雑誌販売を行っています。しかし、その手段は問われません。企業・団体・個人からの寄付金、CICDの仕事などを通して行うことも可能です。Partnership 活動は決して簡単なものではありませんが、同じ目標を持った仲間が集まり、協力することで、今日までほとんどの学生が目標金額を集めることに成功しています。

※なお、Partnership 活動では、交通費£140まで(6ヶ月間) / 食費1日£3が必ず支給されます。

デンマークでの特別活動



6ヶ月の期間中に1週間~2週間程度、デンマークでの特別活動があります。この特別活動では、デンマーク、ノルウェーやヨーロッパのDRHスクールから集まる学生と一緒に活動を行います。あなたがデンマークと一緒に活動を行う彼らは、あなたがアフリカ/インドでボランティア活動するときの仲間となる場合があります。

主な活動内容ですが、各チームにより異なった活動を行います。

- 3月チーム → 演劇活動
- 5月チーム → オリンピック大会(スポーツ大会)
- 9月チーム → Development Conference
- 11月チーム → ニューイヤーコンサート

※なお、費用はすでに参加プログラム費用に含まれているため、別途に支払う必要はございません。

Volunteer Work

アフリカ／インドでのボランティア活動（6ヶ月）

CICDはアフリカ（マラウイ，モザンビーク，ナミビア）又はインドにおいて，Humana People to People の開発支援プロジェクトに学生をボランティアとして派遣しています。

プログラム開始1ヶ月以内に，派遣国先の Humana People to People からプロジェクトの紹介と募集人数を記載した詳細な資料が送られてきます。それを踏まえたうえで，学生は派遣される国とプロジェクトを決定する事になります。なお，派遣される国や時期によっては，各プロジェクトに要請される人数が異なります。

活動期間中は，現地の Humana から住居を提供されます。住居や環境，衛生面などの状況は各プロジェクトによって異なります。都市部で活動する方は，住居やインターネットなど生活の環境がよく，農村部で活動する方ほど，現地の人々に近い生活を送ることになります。住居や生活環境などの情報は，派遣前の CICD での事前研修期間中に十分に得ることが可能であり，これらを踏まえた上でプロジェクトを決定することが可能です。

また，ボランティア活動期間中は現地の Human から Allowance（お小遣い）が支給され，その中から食費とその他を賄うこととなります。金額については派遣される国によって異なりますが，現地で生活するのに十分な金額です。

（※住居費，光熱費，居住するのに必要な備品などは Humana が全額，支給します。）

医療機関にかかる必要があるときは，現地の Humana から安全で現地では質の高い病院を紹介され，そこに行くことが原則となっています。また，その際にかかった費用は原則として現地の Humana が全額，支給することになっています。





アフリカで活動可能なプロジェクト

Child Aid (チャイルド・エイド)

チャイルド・エイドでは、4～6歳の子供たちの幼稚園・初期教育において、教育、健康・保健衛生の活動を行い、小学校へ通うための準備の指導を行います。それと同様に、活動コミュニティの孤児たちに対して、そのコミュニティでの教育や健康生活を受ける機会を与える活動も行います。また、コミュニティ運営を支援するための学校建設や診療所、ポンプ、トイレ、公会堂の建設や、電気の設置など開発活動をコミュニティの人々と一緒に行います。

School for Children (ストリートチルドレンのための学校運営)

チルドレン・タウンやストリートチルドレン、両親の問題で、教育を受ける機会のない6歳以下の子供たちに対する支援活動です。彼らに対して、学校での教育を受ける機会を与えます。

学校では、基礎的な読み書きや算数などの科目の教授、文化、美術の積極的推進、スポーツ活動を行います。

Teacher Training College (小学校教員育成学校)

現地の小学校教員を育成する活動です。指導・監督を受けた学生たちは卒業後、現地の小学校の教員として子供たちを指導していきます。

この活動では、主にコンピュータの指導と管理、学校施設の修理・管理、学生指導・監督、幼稚園の運営・設立を行います。

Vocational School (職業訓練校)

青年たちに対して、就職に必要な技術を教授する活動です。主に農業、建築技術、商業科目（簿記、コンピュータなど）、ホテル・観光業、エンジニアについて教授します。また、女性に対する基礎学習・職業技術を別途に時間枠を設けて教授し、女性が雇用に就く機会を奨励します。

Second Hand Clothes and Shoes Sales (中古衣類販売、ビジネス)

中古衣類販売のビジネスを通し、その収益で他のプロジェクトを支援すると同時に、現地の人々に安価に衣類を提供し、雇用の機会を与える活動です。

主にヨーロッパやアメリカから受け取った衣類・靴を、卸売りと小売店にて、現地の人々に安価に提供します。現地では、衣類・靴は高く、現地の人々が入手しにくい状況にあります。このプロジェクトは、チャイルド・エイドや他のプロジェクトを支援する資金調達の活動ですが、同時に現地の人々に衣類・靴などを安価な値段で提供することによって、現地の人々が衣類・靴を入手しやすい状況をつくることも目的としています。また、このプロジェクトの仕事に携わるのは、全て現地の人々です。

Farmers Club (コミュニティ開発、農民支援活動)

活動コミュニティの農民たちに対し、農業の生産性と知識、農業技術、小規模な農業ビジネスを教える活動です。例えば、肥料の使い方を教授し、ポンプの設置を行うことで、農業生産を増加させ、余剰作物で小規模なビジネスを行い、彼ら自身の収益を増加させる活動を行います。

Hope (HIV/AIDS 予防・撲滅活動)

HIV/AIDS の影響下にある人々や、HIV/AIDS 感染者に対する支援活動です。

活動コミュニティには、Humana の「Hope Center」というセンターがあります。ここでは、コミュニティの人々に対し、HIV/AIDS についての基礎知識や、予防方法を伝える活動を行います。また、HIV テストや、現地ボランティアによるカウンセリングも同時に実行しています。

その他、政府やメディアに対して HIV/AIDS に関する啓発活動の実行、活動コミュニティでの HIV/AIDS 感染者の現地調査も行います。

TCE (Total Control of the Epidemic. HIV/AIDS 予防・撲滅活動)

HOPE と活動目的は同じですが、活動方法が異なります。

TCE では、活動範囲のコミュニティで、現地のスタッフと同伴で 1 件 1 件の家に訪問し、HIV/AIDS についての基礎知識・予防方法を説明し、HIV テストやカウンセリングを積極的に推進します。また、同時にエイズ孤児の支援、HIV 感染者の経済水準の向上に関する活動も行います。

Child Aid Environment and Tree Planting (植林活動。ナミビアのみになります)

ナミビアの環境を考慮した植林活動を行いつつ、現地の人々の生活水準の向上・改善に取り組むことを目的としています。コミュニティの人々や小学校の教師・生徒と一緒に苗床活動を行い、育った植物を孤児に寄付、又は市場で販売するなどして、現地の人々の経済水準の向上を目指します。また、小学校ではクラブを形成し、教師とボランティアが生徒に対して環境・植物についての現地調査を行います。

この植林活動はチャイルド・エイドと平行して行われるため、活動コミュニティ内の HIV/AIDS 感染者の子供や孤児の支援活動も積極的に行われます。



インドで活動可能なプロジェクト

Green Post –Tsunami Action in Tamil Nadu–

津波被害のあったインドのタミル・ナドゥで、現地の人々の生活状況の改善・向上を目的とする活動です。主に、安全な水と公衆衛生の普及につとめています。また、避難所の設置、地下水の涵養や水の保全、塩害を受けた農地回復、多角的農業の奨励し、森林保護を奨励して、環境に配慮した持続可能な方法を活動に取り入れることで、将来の自然災害が起こる可能性を防ぎます。

※2008年現在は、このプロジェクトからの派遣要請はありません。

TCGD (Training Center For Global Development)

インド・デリーのDRHスクールにおいて、学生を指導・監督する活動です。インド・デリーにも、CICDの系列校があり、生徒は6ヶ月間の研修の後、Humanaのインドでの活動プロジェクトにボランティアとして参加します。

CICDのボランティアは、インドの学生たちに対し、プロジェクト参加前に必要な指導と活動を行います。

TCE (Total Control of the Epidemic. HIV/AIDS 予防・撲滅活動)

活動目的・内容は、アフリカTCEと同様です。

Camp Future

世界各地での事後研修 (2ヶ月間)

事後研修は、プログラム最後のまとめの期間となります。1年間のプログラムを通しての自分の活動を振り返り、今後、自分の将来にどのように活かしていくのかを考える期間となります。したがって、この期間は、私たち自らが中心となって創っていくこととなります。

事後研修は、イギリス CICD 又は南アフリカのケネック (DRH スクール) のいずれかを中心に、活動を行います。(南アフリカのケネックで研修を行えるのは、アフリカへ派遣された方のみです。)

いずれを選択した場合も、最初の1~3週間はアフリカ又はインドでのプロジェクトの活動内容のレポートとプレゼンテーションを作成し、他の人々に情報を提供します。また、それと同時に、残りの5週間は自分がどのように過ごすかについて計画立てます。

5週間の期間では、主に以下の活動に従事することが可能です。

CICD で研修を行う場合

- ーヨーロッパや他国の DRH スクールを訪問して広報活動や特別活動を行う。
- ーインドや中南米での Humana People to People のプロジェクトで活動する。

南アフリカで研修を行う場合

- ーアフリカ諸国で活動する Humana People to People プロジェクトで活動する。
- ー6ヶ月間のボランティア活動の期間で活動していたプロジェクトで、引き続き活動する。



ガイアプログラム

ガイアプログラムとは、CICDが運営する古着回収・販売の作業を通して、国際ボランティアプログラムの費用を補填していただくプログラムです。

この「ガイア」という名前は、ギリシア神話「Mother Earth（母なる地球）」からとって名づけました。ガイアプログラムは学生への奨学支援だけを目的とするのではなく、今日の環境と地球温暖化の問題に対して、実際的に取り組む活動でもあります。

ガイアプログラムの目的

1. 環境問題への取り組み

イギリスでは、毎年約100万トンの織物がゴミとして捨てられています。これは、ウィンダムミア湖を満たすのに十分な量です。また、15億ガロンの油が、1トンの織物を生産するのに必要となります。イギリスや他の先進国では、まだ使用できる衣類をゴミとして廃棄することは何ら問題のないことですが、その一方で衣類を必要とする国も存在します。CICDの中古衣類回収・販売では、イギリスでゴミとなって廃棄される衣類を回収し、それを東欧（ウクライナ）など、衣類を必要とする国々へと販売しています。

2. 低所得の国からプログラムに参加する学生の支援

CICDの中古衣類回収・販売の収益は、国際ボランティアプログラムの参加費用（£2,900）を支払うことができなくても、それでも「アフリカ／インドでボランティア活動を行いたい」という、強い気持ちを持った人々の奨学金として当てられています。東ヨーロッパ諸国や中南米など、所得の低い国々から来る学生を積極的に支援しています。



参加期間

ガイアプログラムは4ヶ月間ですが、日本人の参加希望者は、2ヵ月参加可能です。費用の負担が困難な方の出身国、経済状況などを総合的に加味し、参加者を決定しているため、日本人の参加は原則として最長2ヶ月間となります。

補填可能な金額

2ヶ月間参加で、最高£1,200（約168,000円）が補填できます。（£1=140円の場合）
（プログラム費用個人事前支払い£2,900から、ご入学金£500を差し引いた£2,400の半額）

作業内容

1. チラシの配布

古着回収について明記したチラシを、各家のポストに投函していく作業です。1日約1,000～1,200枚を配布します。各人、事前に地図が配布され、割り与えられた地域にチラシを投函していただきます。なお、割り与えられた地域まではCICDのバスでチームメイトと一緒にいきます。作業終了の時間になれば終了です。

2. 古着の回収、仕分け、包装、発送

チラシが投函された地域への古着の回収を車で行う作業です。その後、回収された古着を仕分け・包装し、発送いたします。

3. ガーデニング

主に春から夏にかけて、CICDのガーデニングを行う作業です。コンポスト（堆肥）、草刈りと芝生の整備や植林活動などを行います。

4. 広報活動

CICDプログラムへのお問い合わせの対応、説明を行う作業です。担当する広報者が、自分と同様の国籍の人々に対してお問い合わせの対応と説明をいたします。また、同時にCICDプログラムを広めていく活動も行います。

※現在、日本人の参加者は主に1～3の作業を中心に、従事していただいております。

作業／学習時間と滞在場所

朝食後から夕食前まで作業を致します。滞在先はCICD、もしくはニューキャッスル、バーミンガムとマンチェスターにある宿舎になります。日本人の方は、CICD又はニューキャッスルとなります。

期間中は作業だけではなく、毎朝1時間と毎週1回、必ずアフリカ／インドについてや環境問題に関する学習時間が設けられています。月に1度は、2日間を利用して、ガイアプログラム参加者の全員がCICDに集まり、大掛かりな学習を行います。また、期間中にイギリスの自然の中でキャンプをする「サバイバル・トリップ」もあります。

応募方法

国際ボランティアプログラム参加希望の方でしたら、どなたでも参加が可能です。しかし、毎回希望者が多く、所得の低い東欧諸国・中南米の学生を優先していますので、参加希望の方は早めに申込をされることをお勧めします。

また、プログラム参加中の食費・滞在費などは作業していただく分に含まれているため、別途に支払う必要はありません。

CICDでの日常生活

CICDは、イギリス北部、東ヨークシャー・ハル市に在籍します。ハル市から公共バスを利用して45分の小さな町にあり、周囲は豊かな自然に囲まれる静かな場所です。また、CICDから車で10分行ったところには、小さな海沿いの町もあり、休日をそこで過ごす学生の姿が見かけられます。

35エーカーの土地には、学生が学習するクラスルーム、メインキッチン、食堂、講堂、宿泊施設、ジムが設備されています。また、教室では、学生1人に対して1台のコンピューターが与えられ、インターネットも24時間使用が可能です。

毎週水曜日には、スポーツホールに通えます。スポーツホールでは、バドミントン、卓球、サウナ、プールなど、各種スポーツが楽しめます。また、アイススケートやシネマなどの娯楽も用意されており、生活の息抜きとなるでしょう。なお、これらの費用は、全て学校が負担いたしますので、別途に支払う必要はございません。

学校生活について

CICDは学生達による共同運営です。例えば、朝・昼・夕の食事の準備と食器洗い、毎朝の掃除は全て当番制で学生達が行うこととなります。また、月に1度の週末には「ビルディング・ウィークエンド」という活動があり、学校の施設や備品の修理と改善です。例えば壁のペンキ塗り、壊れたトイレの修理などを行います。これらの活動はアフリカでも行うため、開発支援プロジェクトへ派遣前のいい練習になるといえるでしょう。

CICDの生活スタイル

- 7:30 朝食
- 8:15 朝会
- 9:00 掃除
- 10:00 学習時間（随時、学習内容は異なります）
- 13:00 昼食・昼休憩
- 14:00 学習時間（随時、学習内容は異なります）
- 17:00 プログラム終了、自由時間
- 19:00 夕食

※学習時間のカリキュラムは、事前に予定が立てられ、学習内容は毎日異なります。

※17:00以降は、特例を除いて自由時間となります。

※毎週日曜日は休日です。その他、月に1度の土日が休日となるオープンウィークエンドや、期間中に1週間程度の夏季・クリスマス休暇があります。





CICD の魅力と特徴

国際性豊かな学校

CICDの特徴とその1番の魅力は、国際性豊かなところです。CICDは、世界20カ国以上の異なる国々から参加者が集まるインターナショナル・スクールです。

学生の出身国は、ヨーロッパ/アジア/中南米/アフリカの国々と様々で、常時、約30~40名の学生(2つのチーム)が在籍しています。また、学生の年齢層やバックグラウンドも多様で、10代~60代まで、以前の職業が大学生、会社員、教師、看護師など様々です。

休憩時間や食事の時には、英語/ポルトガル語/フランス語/日本語、韓国語や中国語など、様々な言語が飛び交い、お互いの文化を紹介したり、違いを楽しむ光景が見られます。近年では日本人も数人滞在し、日本料理や折り紙、習字などの日本文化を他の国の学生達に紹介する交流も盛んです。

様々な異なる人々と出会い、価値観を広げたい人には、CICDはまさに最適の場所といえるでしょう。また、国際協力/ボランティア活動を行うにあたり、国籍/年齢層/バックグラウンドの異なる人々とのコミュニケーション能力をつけたい方にも、お勧めです。

2. アフリカプログラム

CICDの国際ボランティアプログラムは、アフリカ/インドへボランティア派遣を行っています。特に1998年のCICDの開校以来、CICDだけで、南部アフリカ/インドを中心に約500人のボランティアを派遣してきました。また、指導教員はアフリカで長年、Humanaのプロジェクトで活動していた経験者です。したがって、指導教員の実際の体験を踏まえたうえでの知識をもとに、学生は指導を受けることが可能です。

学習評価と規則

学習評価

CICDでは、各学生に対して以下の2点を終了することを義務づけています。事前研修期間中に学生が以下の2点を終了しなかった場合は、アフリカ/インドへの派遣が取り消し、又は延期となります。

1. Study Pointが合計850ポイント以上に達成すること
2. Partnership活動£3,200を終了すること

プログラム終了後

CICDでは、プログラムを正式に終了した学生に対し、卒業証明書を発行しています。また、学生がアフリカ/インドでボランティア活動を正式に終了したときにも、現地のHumana People to Peopleから修了書が発行されます。

プログラム期間中の規則

1. ドラッグの禁止

プログラム期間中、ドラッグの使用は厳密に禁止されています。

2. 飲酒の禁止

CICD事前研修期間中のみ、休暇を利用して外部で飲酒することは許可されています。しかし、学校内で飲酒することや、外部で飲酒した日にCICDに戻ってくることは許可されていません。

あなたがボランティアとしてアフリカ/インドで活動を行うときに、あなたがドラッグを使用し、飲酒することは現地の人々にとって好ましいものではありません。なぜならば、ドラッグや飲酒がアフリカ/インドにおける貧困問題にも深く関係しているからです。また、あなたがドラッグや飲酒を行い、正常な意識が保てない状況の中で現地の人と誤って性交渉をもち、HIVに感染する危険もあります。これらの理由から、CICDプログラムではドラッグと飲酒を固く禁止し、規則を守れなかった学生に対しては、退学などの厳しい処置をとっています。



プログラムへの参加方法

プログラム開始時期

CICDは、毎年3月、5月、9月、11月からプログラムを開始しており、開始時期によってその後の派遣先国が異なります。

- 3月/9月チーム : モザンビーク又はインド
- 5月/11月チーム : マラウイ, ナミビア, モザンビークのうちいずれか

応募資格

18歳以上。専門的な知識と技術は必要ありません。しかし、英語での基礎的なコミュニケーション能力は必要です。（※英語が苦手な方で不得意な方も参加はできます。英語能力に関する試験などはありません。）

プログラム参加費用

費用合計：£6100（約854,000円）

£2,900（約406,000円）：入学金£500

イギリス宿泊・光熱費・食費, アフリカ旅費・ビザ取得費£2,400

※当校の古着リサイクルプログラム（ガイアプログラム）に2ヶ月間参加した場合は、£1,200（約168,000円）免除

£3,200（約448,000円）：学校運営費と滞在費補填。

事前研修期間中のPartnership活動（街頭での雑誌販売）によって補う。

※国際ボランティアプログラム参加事前に支払う必要はありません。

注) 上記の日本円の換算は、£1=140円で行っております。

費用に含まれないもの：

- ー日本からイギリスの往復渡航費
- ーイギリス学生ビザ取得費
- ーイギリス滞在中の海外旅行保険費
- ー事前研修/事後研修期間中のポケットマネー
- ー予防接種費用〔マラリア予防薬（ドキシサイクリン）は、派遣前にCICDから支給されます。〕

なお、アフリカ/インドボランティア活動期間中の宿泊・光熱費、食費、ポケットマネーは全て支給されます。

プログラムお申込みと参加までの流れ



①ウェブサイトからのダウンロード，又はEメールの問い合わせにて申込書 (Application form) を入手していただき，こちらに英語でご記入の上，広報担当者 (中尾) 宛にEメール／郵送／ファックスにてお送り下さい。担当者が折り返し，申込者のほうへご連絡いたします。

②お電話インタビューは，スカイプ／固定電話のみとなっております。こちらのお電話インタビューで，広報担当者からCICDやプログラムに関する詳細な説明を行い，申込者の質問に応答させていただきます。

③正式な入学書類 (Enrolment form) をEメールにてお送りします。ご記入後，Eメール／郵送／ファックスにて広報担当者へお送り下さい。

④入学金 (£500) と参加費用 (£2,400) のお支払いと，その証明書を広報担当者にお送り下さい。CICDでお振込みが確認できましたら，入学許可証を郵送いたします。

⑤日本人の方は，イギリスに6ヶ月以上滞在する場合は必ずビザが必要となります。(ガイアプログラムに参加しない方も，取得が必要。) 入学許可証がお手元に届きましたら，学生ビザ取得のお手続きを始めてください。学生ビザ申請にはCICDのこの入学許可証が必要となります。

ビザ申請所 (<http://www.vfs-uk-jp.com/japan/>)

英国大使館 (<http://ukinjapan.fco.gov.uk/ja/>)

⑥航空券の手配がお済みになりましたら，イギリスへの到着日をお知らせください。到着日は各自，自由です。また，当校最寄り駅になります Hull (ハル) への到着時間をお知らせいただければ，駅までお迎えにあがります。

※申し込み手続きの完了には，電話でのインタビュー，入学許可証の郵送やビザ発行手続き等の期間を必要としますので，余裕をもってお申し込みされることをおすすめいたします。

必ず，参加を希望されるプログラム開始時期の2ヶ月前までにはお申し込みのお手続きを開始して下さい。

よくあるご質問

入学・言語に関するご質問

Q：申し込みはいつ頃までにすれば良いのでしょうか？

A：プログラムの開始時期（3月／5月／9月／11月）の**必ず2ヶ月前から**開始してください。申し込みはプログラムの各開始時期の2週間前まで受け付けておりますが、学生ビザ申請には約1週間～3週間前後のお時間がかかります。ご準備を余裕をもって済ませるためにも、2～3ヶ月前に申し込み手続きを開始されますよう、お願いいたします。また、応募人数が満員になり次第、申し込みを締め切らせていただきますので、ご注意ください。

Q：英語力はどのくらい必要なのでしょうか？

A：日常会話レベルの基礎知識は必要です。全く英語が話せなくても参加可能ですが、英語の基礎知識がないと、授業やその他の活動を行うにあたり、困難なことは覚悟されて下さい。

英語に自信のない方は、国際ボランティアプログラムを開始なさる前に、ガイアプログラムに参加なさることをお勧めいたします。

Q：各チームの人数はどれくらいですか？また、日本人の数はどのくらいでしょうか？

A：プログラムの開始時期によって異なりますが、各チームの人数は、毎回、約20名前後となっております。多いときでは、約25名前後のときがございます。日本人の在籍状況ですが、常時、各チームに1～2人の日本人が在籍し、最高で各チームに5～6人の日本人が在籍しています。

Q：プログラムを1年間に短縮することはできますか？

A：過去の日本人の参加者の中で、大学の休学期間などの都合で事後研修の2ヶ月間を参加なさらず、1年で終える方もおられました。この場合、担当教員との相談／協議の上、可否がございます。しかし、事後研修はプログラムの大切な一環として組み立てられており、したがってその場合に、残りのプログラム費用が返還されることはございません。何卒、ご理解とご了承をよろしくお願いいたします。

プログラム費用／その他の費用についてのご質問

Q：入学金£500を支払って入学が決定した後に、何らかの理由で入学を取り消しにした場合は、入学金£500は返還されますか？

A：入学金£500を支払った後は、いかなる理由がありましても返還することはできません。ご了承とご理解をよろしくお願いいたします。

Q：ボランティアなのに、どうしてお金を支払う必要があるのですか？

A：CICDは1人の学生につき、1ヶ月に£100をHumana People to Peopleからトレーニング費用として受け取る以外、それ以外の補助金を受けておらず、非営利で運営されております。

費用にはご入学金とプログラム費用だけではなく、参加者ご本人様の滞在費／食費をはじめ、イギリス～アフリカ／インドへの往復航空券、アフリカ／インドのビザ取得費と海外保険費などが含まれており、これらは海外でボランティア活動を行うにあたり、必要不可欠な出費となります。その他、事前研修期間中には、毎週水曜日にスポーツホールに行ったり、時にはアイススケートや映画を見に行くなどの娯楽費用なども含まれています。

また、イギリスは日本よりも物価の高い国でもあります。特にヒーターの利用など、滞在には費用がかかることを、あらかじめご理解下さい。

Q：ポケットマネーはいくら必要になりますか？

A：CICDに滞在する日本人の学生が使用する1ヶ月のポケットマネーは、平均£10～20と少ないです。

その理由といたしましては、CICDには食べ物や飲み物、生活必需品は全てそろっています。そのため、個人の必要となる支出は、お菓子、歯ブラシや歯磨き粉、シャンプーなどの消耗品となるからです。

オープン・ウィークエンドや長期休暇で旅行をされたい方は、こちらの費用が必要となることから、ポケットマネーが余分に必要だとお考え下さい。ポケットマネーをいくら持参したらいいのかわからない方や、お金を持ち歩きたくない方には、あらかじめ日本でのクレジットカードの作成をお勧めいたします。最寄の金融機関、又はクレジットカード会社にて、外国のATMで現地通貨を引き落とせるカード作成のお手続きを行ってください。

トラベラーズ・チェックのご持参も可能ですが、ルートによっては換金が悪い場合がございます。また、換金可能な場所も限られる場合がございますので、あらかじめ、ご了承下さい。

イギリスでの事前研修に関するご質問

Q：CICDの事前研修期間では、どのようなことについて学習するのですか？

A：日本の高校・大学の授業とは異なり、語学やプレゼンテーション以外は主に個人主体の勉強です。パソコンのネットワーク上に学習システムがあり、それを通じて学んでいきます。希望する派遣国とプロジェクトに沿った形で勉強していきます。

例えばモザンビークでHIV/AIDSの予防活動に参加する場合は、午前中にポルトガル語の授業を受け、午後にパソコンでHIV/AIDS・感染症に関するレポートを書くと言った具合です。

朝のミーティングなどではアフリカのビデオ見たり、先生の体験談を聞いて議論をします。プレゼンテーションは週ごとに課題が与えられて、個人またはグループでアフリカに関する事柄をパワーポイントやスキットにまとめ発表します。

Q：どのような部屋で生活するのでしょうか？

A：1人部屋、又は2～3人部屋がメインになります。1人部屋ですと、6畳ぐらいのスペースにベッドと家具や机・椅子があります。各フロアにはトイレと温水シャワー・バスが完備してあります。また冬には暖房が入ります。

Q：コンピューターやインターネットは使えますか？

A：教室には、各個人にデスクトップ・コンピューターとインターネット回線が配備されています。インターネットは教室にて、24時間使用することが可能です。

Q：スポーツはできますか？

A：学校にはスポーツホールがあり、フィットネスや卓球などができます。バレーボール・サッカー・バスケットボールコートがあります。水曜日と日曜日には、近隣のスポーツジムに出かけることができます。そこでは、水泳・サウナ・バトミントン・スカッシュなどが楽しめます。費用は学校が負担します。

Q：仮に期間中のPartnership活動で£3,200を収集できなかった場合、アフリカ/インドへの派遣はどうなりますか？

A：個人が期間中にPartnership活動の目標金額£3,200に達成しなかった場合、以下の状態が考えられます。

1. 終了したチームメイトが助けて、一緒にアフリカ/インドへの派遣となる。
2. チームメイトが協力を拒否し、それでもチームメイトと一緒にアフリカ/インドへの派遣を希望する場合は、個人負担をする。
3. チームを変更して、アフリカ/インドへの派遣を延期する。

Partnership活動は、プログラムにおける重要な1つの活動です。そのため、目標金額である£3,200に達成しなかった場合は、アフリカ/インドへの派遣はなされません。

毎回、目標金額に達成しなかった場合に起きるケースとしては、「1」となります。しかし、あくまでもチームの状況によって異なりますので、他のケースが生じることも十分にご承知下さい。

アフリカ／インドでのボランティア活動に関するご質問

Q：アフリカ／インドでの活動や生活は安全でしょうか？

A：ボランティアの方は、現地Humana People to Peopleの下で活動します。世界情勢などが変化して治安が悪化し、危険だと判断された国や地域にはボランティアの派遣は行いません。

Q：アフリカ／インドでの活動において自己の責任の範囲外での大きな事故・ケガ・病気などの事例はありますか？

A：まれに交通事故にあうことはありますが、大きなケガや病気は過去の事例としてはありません。ケガや病気の多くは、自己の健康管理の不備や決められたルールを守らなかったことによるものがほとんどです。この点に関してCICD, Humana ともに派遣されるボランティアには厳しく指導し、自己管理を徹底するように求めています。

Q：海外旅行保険や予防接種は受けられるのでしょうか？

A：予防接種は自己負担となりますが、アフリカ／インドでの海外旅行保険はプログラム費に含まれています。事前に感染症の学習をし、予防接種・マラリアの錠剤を持って現地入りします。

Q：アフリカ／インドでの活動期間の延長は可能ですか？

A：場合によって可能です。希望時期とプロジェクトがすでにわかっている場合はCICD側で確認、調整のうえ、期間延長の可能性について、確約はできませんがお知らせすることはできます。過去のケースとして、プロジェクトでの活動をする中でHumana から評価されプロジェクトに残るように依頼され、結果的に活動の期間を延長した学生はいます。

Q：コンタクトを手で取り扱う際の水の衛生具合について教えてください。

A：コンタクトレンズの使用やケアについては、十分な量のケア用品を持参し、レンズの取り外し・装着時に市販のウェットタオルなどで手を清潔にして取り扱えば問題ないかと思います。ただ、念のためメガネは持参してください。

Q：現地の人と生活することはできますか？

A：基本的には認めていません。アフリカ／インドでの活動期間中はプロジェクトにより多少の違いはありますが、生活はプロジェクト側から提供される宿泊施設を中心に行い、現地の人と寝泊りすることはありません。他の学校やCICDのボランティアと生活することになります。この理由はボランティアの方の安全を重視しているということと、現地の人たちとの生活様式の違いを考慮してのことです。もし、現地の人の方にホームステイのようなかたちで生活したい場合、活動期間中にプロジェクトリーダーや信頼できる現地の人に相談したうえで、1週間の休暇の期間中に行うことが可能な場合があります。

Q：アフリカ国内での他団体との交流・協力関係はありますか？

A：ございます。アフリカでのプロジェクトのほとんどが現地の政府の協力の下で行われており、プロジェクトによっては、その他のNGOや国際機関と連携をとりあい進められているものもあります。そのため、個人が望み活発に動いていくことができれば、そういった関連機関・団体の人たちと知り合う機会があります。

Q：アフリカ/インドでボランティア活動をしているとき、家族や友人とはどのように連絡をとることができますか？

A：こちらは、活動するプロジェクトや滞在場所によって差が出てきます。ご家族やご友人との連絡は、主にインターネットを通じたEメールが中心となると思いますが、都市を中心に活動される方は、比較的インターネットの利用もしやすく、頻繁に連絡をとることが可能になると思います。

農村を中心に活動される方は、インターネットの利用機会が少なくなるため、頻繁に連絡をとることは困難となります。しかし、アフリカ/インドといえども、都市に行けば必ずインターネットカフェがございます。また、Humana People to Peopleのオフィスでは、ノートパソコンをご持参していただいて、インターネットに接続することも可能です。

また、海外のコンピューターでは日本語に対応していませんので、ノートパソコンをお持ちの方は、なるべくご持参なさることをお勧めいたします。ノートパソコンをお持ちでない方は、日本人のチームメイトのノートパソコンなどをお借りして、日本語を利用することになります。

なお、都市やオフィスに行く必要がある場合は仕事を休むこととなりますので、事前にプロジェクト・リーダーとの話し合いが必要になります。

Q：アフリカ/インド滞在中に、家族や友人が私を訪問することはできますか？

A：はい、可能です。ただし、仕事の状況もありますので、事前にプロジェクト・リーダーや責任者に同意を得ることが必要です。

Q：アフリカ/インドで医師として活動することはできますか？

A：Humana People to Peopleのプロジェクトでは、ボランティアの方が医師として専門的に活動できる仕事はありません。Humanaのプロジェクトは、感染症などの予防、安全な水の確保、HIV/AIDS予防・撲滅活動、保健/衛生の指導と管理、菜園の運営や栄養についての指導などの活動を行っており、ここで医師/看護師としての知識と技術を大いに活躍することができます。

また、プロジェクトによっては、現地のクリニックや病院と連携して行うキャンペーンなどがあり、このような場合においても活躍することが十分に考えられます。

Q：アフリカ/インドでのプロジェクト・リーダーはどのような人ですか？

A：アフリカ/インドで、みなさんの直轄の責任者となるプロジェクト・リーダーは、Humana People to Peopleに雇用された現地人、又は外国人となります。プロジェクト・リーダーのほとんどが、2年～何十年間、すでにプロジェクトで活動している方となります。

Q：アフリカ/インドでボランティア活動するときには、どのような場所に住むのですか？

A：こちらは派遣国とプロジェクトによって大きく異なります。

ボランティア活動期間中は、同じプロジェクト、又は同じ地域で活動しているボランティアとの共同生活になります。共同生活するボランティアは、CICDの同じチームメイトであったり、他のDRHスクールの学生であったりと様々です。TTCやVocational Schoolなど、学校で活動する場合は、学校の敷地内に用意されたボランティア用の宿舎で生活することになります。

皆様が生活する住居ですが、都市で生活する場合は水道、水洗トイレ、シャワー（水）や電気などがあります。逆に農村で生活する場合は、水道や電気がないときが多く、シャワーもございませんので、バケツに水を汲んで浴びる形となります。トイレも簡易式（ポットン便所）となり、農村で活動される方は現地の人と同じ生活環境になるとお考え下さい。

生活住居や環境は、派遣されるプロジェクトによって大きく異なり、これらが気になる方は事前に確認の上、派遣されるプロジェクトを選択することが十分に可能です。また、家にはHumana People to Peopleが雇用した警備員が配置されます。

アフリカ/インドでのボランティア活動期間中は、Humana People to Peopleより食費とポケットマネーが支給されます。派遣国の物価やプロジェクトによって若干、金額に差が生じます。参考まで

に、マラウイでは週に1度、約30~40 USドルが支給され、プロジェクトによっては交通費が別途に支給されます。いずれにしても、現地で生活するのに十分な金額が支給されます。

Q：アフリカ／インドでのボランティア活動期間中の1日の生活はどのようなものですか？

A：こちらは派遣国とプロジェクトによって、多少は異なってきます。現地の人々の朝は早く、夜も早いという生活習慣となります。したがって、午前5：00~7：30の間で仕事を開始し、午後16：00~17：00に仕事が終了します。

Q：アフリカ／インドでのボランティア活動期間中に、旅行をするための休暇などがありますか？

A：ございます。毎週日曜日はお休み、クリスマスと年末年始はお休みとなります。また、期間中に1週間の休暇と1週間の研究週間が用意されています。安全性の確保上、派遣国から出国することは許可されておりませんが、派遣国内を旅行することが可能です。Humana People to Peopleの他のプロジェクトや、他のNGO・団体の活動を視察することも可能です。仕事の進行状況もありますので、事前にプロジェクト・リーダーと相談することが必要です。

Q：アフリカ／インドでボランティア活動をし、プロジェクトを変更したい時や、日本に戻りたい時は、それを行うことができますか？

A：アフリカ／インド派遣前に、CICDではイギリス~アフリカ／インドまでの往復航空券を購入します。そのため、こちらを使用してCICDや日本に帰国することは可能です。現地のHumana People to Peopleのオフィス本部には、皆様の抱える問題やご相談・お悩みごとに対応する責任者がおります。アフリカ／インド滞在中に何らかの問題が生じた時には、遠慮なくこちらの責任者にご相談下さい。また、事情や場合によりましては、責任者のもと話し合いの下に、プロジェクトを変更することも可能です。

予防接種や健康／医療に関するご質問

Q：アフリカ／インドで何らかの事故にあい、輸血する必要があった場合はどのような対応が可能なのですか？

A：緊急事態の場合には、プロジェクトがすぐに地元のドクターとインターナショナルSOSと連絡をとります。これらのことにより、緊急事態でもとても専門的な処置を得ることを確実にします。

Q：健康保険など、医療機関にかかる必要がある場合は、どのような対応が可能ですか？

A：イギリスCICDでの事前研修期間中は、海外旅行保険に加入されることをお勧めいたします（個人負担）。風邪などの日常にみる軽い症状で医療機関にかかる必要がある場合は、CICDから車で5分ほどのところにクリニックがあり、そこで診察を受けることが可能です。イギリスの医療機関の場合、日本とは異なり、診察は全て無料となっております（医薬品は自己負担。歯科は診察費が必要）。また、事前に病院にて登録カードを利用して登録する必要がございますが、こちらでも無料となっております。

アフリカ／インドのボランティア活動期間中に医療機関にかかる必要がある場合ですが、こちらは派遣前にCICDから強制的に海外旅行保険に加入されるため、全ての費用がこの保険によりカバーされます。（こちらの海外旅行保険費用は、すでにプログラム費用に含まれております）

現地にて風邪、下痢やマラリアなので医療機関にかかる必要があった場合、全ての費用は現地のNGO Human People to Peopleがボランティアの方に支給し、後日にHumanaが保険会社と連絡をとるという形になります。

何らかの重い病気や事故に遭遇し、南アフリカや日本など、他の国に搬送される必要がある場合、このような交通費や医療費も全て加入する海外旅行保険によりカバーされます。



お問い合わせ・連絡先

College for International Co-operation and Development

Winestead Hall

Patrington

Hull HU12 ONP

England

Phone: +44-7813-854298

Fax: +44-1964-631695

E-mail: cicd05@yahoo.co.jp (担当: 中尾 友美)

Web page: www.cicdvolunteer-japan.org.uk/